



## 第22回作業科学セミナー

# 参加とコラボレーション 作業について共に学び合う

2018年12月8日（土）・9日（日）  
会場：首都大学東京荒川キャンパス  
主催：日本作業科学研究会



作業（occupation）は、作業療法士、クライアント、そして作業科学の研究者を含む、すべての年齢の多様な人々に、直接的な影響を与えている。このように、多様な人々がそれぞれの立場から作業に参加している（関わっている）ので、作業が日々の生活にどのように機能しているのかについては、様々な考え方や認識が存在していると言える。

このことは、作業をどのように理解し解釈すべきなのかという問いを生む。現在、作業を遂行や参加の問題としてのみ捉える傾向に対する批判が存在している。その一方で、作業を通して生きることの意味を確立し、健康と well-being を促進するためにはどうしたらよいかという議論が起こっている。

デューイのトランズアクション理論（相互浸透理論）やナラティブアプローチは、作業を時間と場所に埋め込まれた社会文化的な営みとしてとらえるようにと私たちに呼びかけている。さらに、これらの解釈的アプローチとは対照的に、参加型アプローチを使用して、作業療法士やクライアントといった当事者にとって実践的な知識を作り出すという力強い主張も存在している。

言い換えれば、作業に関する多様な視点を考えていくことは「だれがどのように作業科学から影響を受けているのか」という問いを生む。作業科学の研究者や作業科学の学習者である私たちにとって、作業に関する様々な視点を組み合わせていながら、この問いを考えていくことは、やりがいのある課題である。そして、そのためには、参加すること、そしてコラボレーションすることが求められる。

第22回OSセミナーでは、発表者、作業科学者、作業療法士、障がいのある人、ない人、それぞれの視点や考えを皆で共有し合うことで、この挑戦すべき価値のある課題に取り組んでいきたいと考えている。

ボンジェ・ペイター  
第22回作業科学セミナー代表